

## 2022年3月期 中間決算について

2021年 11月12日  
JFE鋼板株式会社

2021年9月中間期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(百万円未満切捨て)

### 連結経営成績

(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%			
2021年9月中間期	31,621	24.8	2,176	-	1,501
2020年9月中間期	25,347	△ 21.8	105	2	△ 1

注 連結子会社数

2021年9月中間期 5社、2020年9月中間期 5社

(百万円未満切捨て)

### (参考)単体経営成績

(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%			
2021年9月中間期	27,708	26.4	1,988	-	1,456
2020年9月中間期	21,918	△ 18.3	371	2	307

### 【当中間期の概況と損益】

当社グループの当中間期の売上高は、コロナ禍から薄板建材需要の持ち直しにより販売量が増加したこと、世界的な鉄源不足による薄板需給ひっ迫を背景とした鋼板製品価格の販価改定効果により、31,621百万円(前年同期比+6,274百万円、+24.8%)と大幅な増収になりました。工事関係部門(含グループ会社)は、物件・工事等の全面的な回復には至っていないこと、原材料高騰の販売価格への反映にタイムラグがあることなど、厳しい状況が続いています。

損益は、鋼板部門での、販売数量増加、製造ラインの操業アップおよび安定操業によるコストダウン、管理費削減、東日本製造所(京浜地区)のCCL休止効果に加えて、在庫評価益等一過性の要因が大きく寄与し、経常利益は2,176百万円(前年同期比+2,071百万円)、当期純利益は1,501百万円(前年同期比+1,502百万円)となりました。

### 【当期の見通し】

新型コロナウイルス感染による日本経済への影響は引き続き注意が必要な状況です。今後を見通すうえでは、原板価格に加えて、亜鉛・アルミニウム等の原材料高騰によるコストアップの常態化、円安やフッ素樹脂塗料供給制限問題等も顕在化しています。こうした環境下で対処すべき課題として以下の施策等を展開し、安定した収益基盤を構築します。

#### 1) 販売価格の適正化

お客様にご理解を頂きながら、原材料価格に見合い、再生産可能な適正価格を目指します。

#### 2) 製造安定化・コストダウンの実施

操業・設備の更なる安定化による生産性向上を図り、製造コスト・管理費の削減を引き続き行ってまいります。

#### 3) 製造ラインの運用最適化を実施します。

#### 4) 収益性の高い品種への転換、新規商品開発による拡販等で収益拡大を図ります。

#### 5) 工事関係部門(含グループ会社)については営業強化、コストダウンを推進し、収益改善を目指します。

以上